

第2回学術情報ネットワーク運営・連携本部会議議事概要

1. 日 時： 平成17年3月24日（木） 11:30～12:30

2. 場 所： 国立情報学研究所 22 階会議室

3. 議事概要

(1) 経過報告

坂内本部長から、前回からの経過について、以下の報告があった。

- ・ 科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会コンピュータ・ネットワークワーキンググループで前回の意見等をもとに、学術情報ネットワークの現状と最先端学術情報基盤の構築についてのプレゼンテーションを行った。
- ・ 7大学の学長クラスに面談し、最先端学術情報基盤の構築を進めることへの理解を得るための説明を行っている。

(2) 次期学術情報ネットワークに対する意見・要望等の取り扱いについて

NII から資料4に基づき説明があり、以下のような意見交換を行った。

- ・ 平成17年度の整備計画では、次世代の情報基盤の構築に向けての投資と、既存ネットワークの拡充要望対応の2点を重視し、早急に整備計画を策定し、発注したい。
- ・ 選考作業については、NIIのSPARC-JAPANで行った方式を参考とし、評価基準を基に評価委員が評価点を付与し、それを基に本運営・連携本部で決定する。また、評価プロセス及び評価基準の作成等は、作業部会で行うこととした。
- ・ 利用率のグラフの50%を超えるところについては、評価と無関係に増強するべきである。このことについては、現在NII側で1G未満の回線を1Gに増速すること等4点の整備計画案を検討しており、それによって解決する可能性がある。その4点の案についても、NIIからの提案として応募の中に追加し、選考を行うこととした。
- ・ 取り敢えず応募しておこう、といった安易なものも見受けられるため、提案者の決意や実現する力、利用がなかった場合の対処方法等を確認すべきである。大きなコストをかけるので、簡単に採択されと思われしないようにする必要がある。提案者に何らかの経費負担とか、責務を課す等の無意味な提案を無くす環境作りに加え、チェック&レビューによる見直しについても検討する必要がある。また、提案の真剣度については、ヒアリングや追加資料を求めて評価してはどうか。

(4) 作業部会の設置について

- ・ ネットワークに関する具体的な検討を行う「ネットワーク作業部会」の設置が了承された。主査は、本年4月からNIIの新しい開発・事業部長に就任予定の安達教授が選出され、次回から運営・連携本部構成員となることとなった。また、坂内本部長から、幹事として東京大学の若原教授と大阪大学の下條教授が指名された。

- ・ 認証基盤の構築のための検討を行う「認証作業部会」の設置が了承された。主査は、京都大学の岡部教授、副主査はNIIの曾根原教授が指名された。なお、岡部教授から、認証作業部会の構成員について、現在は大学関係者だけであるが、検討が進むと高エネルギー、天文台、旧科技厅系の国研、大学図書館の関係者等の追加が予想されるとの発言があった。
- ・ スーパーSINET 推進協議会の下にある研究部会との関連については、次のようにすることとした。スーパーSINET 推進協議会は、スーパーSINET を利用した研究グループの情報交換の場という位置づけにし、リソース配分等の取り扱い等は、本運営・連携本部が行う。また、スーパーSINET の共同研究が3月で終了するので、4月からのスーパーSINET 推進協議会は、本運営・連携本部と整合する形で進める。

(5) その他

- ・ SINET の恒常的な設備投資は、NII の責任として行うべきであるが、これまでのSINET はコミュニケーション不足で、地域の状況も把握できない状態ではなかったか。今後はその改善策として、ネットワーク運用のための人材・技術者を全国に配置するようなことができないかとの意見があり、今後検討していくこととした。
- ・ 現状の学術情報ネットワークは、layer 3のサービス提供であるため、アドレス管理等で不便な場合があるので、layer 2での接続を可能にして欲しいとの提案があった。これらネットワーク運用の問題点についても、今後ネットワーク作業部会等で検討を行っていくこととした。